



「知りたいわけじゃない」情報を探すのには、ネットはあまり適していない、ということから類推すると答えがわかります。

ネット上のサービスは概して、おせっかいだ。本や音楽

筆者も最近、ネットで聴き放題の音楽配信サービスを利用するようになった。いま人気の曲を聴いてみようと思いつつも、つい昭和のシティポップに熱中していたら、配信元から当時の音楽ばかり薦められるようになった。①よほど意識しないと、自分の好みから離れるのは難しい。

かくして、好きなものの情報、自分に似た意見はどんどん集まってくる反面、そうでないものに触れる機会が相対的に減り、存在が見えにくくなっていく。

人々の間に、意見の相違があるのは当然だ。だが、それ以前に、意見の根拠となる事実や知識が共有されず、互いに別の世界を見ているようでは、議論すら成り立たない。

今はスマートフォンで、いつでもどこでも好みの音楽や映像に接することが可能だ。SNSでは友人知人に加え、インターネット上で知り合った人々と交流することもできる。常に好きなものに囲まれる快適な生活の実現、とも言える。

購入すれば、その傾向を分析して「これがあなたの好み」と他の商品を薦めてくる。SNSでも「この人は友達ではないですか？」などと次々と人を紹介してくる。検索した単語も分析され、その傾向は検索結果に反映するらしい。

それはそれでよいのだけれど、ネットがここまで巨大化し、人々にとっての情報インフラそのものに近づいてしまったからには、②知りたいわけじゃなくて、知っておいた方がよいもの」が目につく必要も、ありはしないだろう。

広角
多角



編集委員 片山一弘

ネットだけではつながりにくい

そんな状況になりつつあるのではないかと、と様々な争いを見ていて感じることがある。

「ほしいものが、ほしいわ。」

広告が時代の空気を示す最先端のメディアとして注目されてきた1980年代に、糸井重里さんがコピーライターとして西武百貨店の広告に書いた言葉だ。

このコピーになぞらえていえば、インターネット産業は、人々の「知りたいもの」が、しりたいわ。」という要望に応じる方向に進んできた。

それはそれでよいのだけれど、ネットがここまで巨大化し、人々にとっての情報インフラそのものに近づいてしまったからには、②知りたいわけじゃなくて、知っておいた方がよいもの」が目につく必要も、ありはしないだろう。

- 1 (ア)と(イ)に入れるのに適当な言葉を下からふたつ選び、○を付けましょう。

() インターネット (○) 書店 () SNS
(○) 図書館 () スマートフォン

- 2 傍線部①「よほど意識しないと、自分の好みから離れるのは難しい」のは、なぜでしょうか。記事中の言葉を使って、25字以上30字以内で説明しましょう。

好きなものの情報、自分に似た意見はどんどん集まってくるから

25

「なぜでしょうか」と問われているので、文末は「～から」としましょう。記事の前半で「常に好きなものに囲まれる」「概して、おせっかい」などとネットの特徴を書いています。まとめている部分を探しましょう。

- 3 傍線部②「知りたいわけじゃなくて、知っておいた方がよいもの」と同じ意味で使われている言葉を記事から抜き出しましょう。

興味がないけれど世の中では一定の存在感がある分野の情報

自分は「興味がない」＝「知りたいわけじゃない」、「知っておいた方がよい」＝「一定の存在感がある分野の情報」と読み替えられると良いですね。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

被災農家 SNSで支援

あなたに
エール

6

広がる

昨年の日本列島は、9月の台風15号、10月の台風19号などで大規模な被害に見舞われた。そんな中、被災農家を支える動きがSNSを中心に広がっている。

◇

南フランスでフランス料理店を営んでいる神谷隆幸さん(41)は、台風19号でリングゴに大きな被害が出ていることを、ツイッターで知った。

「日本で災害が起きた時、いつも何もできないことがもどかしかった。何かできないか」

被災した農家からリングゴを購入した人向けに、リングゴを使った洋菓子「タルト・タタン」のレシピを提供することを思いついた。ツイッターで呼びかけると、投稿を見たシェフや料理研究家などが「自分もできる」と賛同。「#被災

地農家応援レシピ」というハッシュタグとともにツイッターなどで広がった。これまでに100人以上がレシピを投稿したといい、「SNSの力を実感した。今の時代だからこそできる新しい支援の形を確立できたのでは」と振り返る。

神谷さんは、今回の活動を通じて知り合ったシェフらとチームをつくり、今後も災害が発生した時に農家を支援していく仕組みを作るという。

「これまでは被災地を思うことしかできなかったが、インターネットがあれば日本にいても活動できることを発見した」と話す。

SNSの活用に詳しい法政大社会学部准教授の藤代裕之さんは「SNSは、被災した人と応援する人が直接、つながることができる。投稿内容を共有することなどで、知らない人ともつながりやすく、災害時の新しい支援の仕組みが生まれやすい」と話す。

(おわり)

(2020年1月11日 読売新聞朝刊より)

「ネットだからつながりやすい」という例もたくさんあります。

ネットの欠点を知った上で、良さを生かせるとよいですね。





学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握	精査・解釈		
		ア	イ	ウ	エ
設 問	1	○			
	2		○		
	3		○		